

# OECDティーチング・コンパス（教師の羅針盤）～カリキュラム変革の担い手としての教師を再構想する～

## 「ティーチング・コンパス」とは？

- ・「教えること、そして教師であることの意味」を未来に向けて再構想する総合的なビジョンです。ラーニング・コンパスが描く「予測不能な未来を生きる、未来を創る子どもたち」を導く教師もまた「未来を共に創造する当事者」であるという認識のもと、生徒のエージェンシー・コンピテンシー・ウェルビーイングを育むための方向性を、下図の6項目で示しています。
- ・「ティーチング・コンパス」は、世界的な研究成果及びOECDにおける国際的な協働・対話・共創によって策定されました。各国の共通認識として、教師が目的意識と専門性に誇りをもち、教師と子どもが共に学び、成長し続けることで、一人ひとりの未来、そして教育・社会・世界の未来をより豊かなものにできると信じられています。

### ⑥ コレクティブインパクトを創出する 学びのエコシステムに不可欠な 存在としての教師

教育は多様なアクターがあり、教師の存在は不可欠な重層的に関わり合う生態系で

### ③ カリキュラム変革をリードする 教師エージェンシー

教師は個人・共同・集団の三層で主体性を発揮。とりわけ、意思決定に関わる自己効力感はこの層においても不可欠

### ② コンパスの向かう方向に 「錨」を据える

教師としての、  
・Being—どうあるか（存在・自己認識）  
・Belonging—誰とどうつながっているか（所属感・関係性）  
・Becoming—どうなっていくか（自己認識の変容・成長）  
という三次元で構成される「錨」が、一人ひとりに必要

### ⑤ 専門職/職人としての成長と充実を 支える教師のウェルビーイング

より包括的な視点からWBを捉え、専門職/職人としての目的意識とアイデンティティを中核に据える教師としての使命に基づき行動する中で、逆境に強いマインドと熱意を生み出す

### ④ 複雑な状況を舵取りするため の教師のコンピテンシー

知識・スキル・態度・価値観を統合し、複雑な課題に対応する総合力を備えることが不可欠

①

私たちが望む未来を現実にする

持続可能で公平で人生や生命を大切に  
・二項対立を超えた全体システム論的思考  
・歴史の知恵と現在に軸足を置く学びの統合が必要  
未来のためには、

